

地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

# にしあいづ物語100選 その60

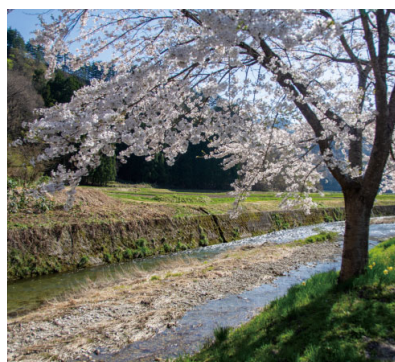
文：貝沼 利則

## 呼賀・観音寺の歴史

皆さんは「呼賀」という集落名を正しく読むことができますか。「よばるか」と読みます。呼賀は平明村の端村であり、平明村との距離が近いので、お互いに人の名前を呼び合うことができるので、この名が付いたとされています。

呼賀集落に入り、左側の丘の上に所在するのが曹洞宗和光山観音寺で、現在22世の住職がお勤めされています。その歴史は古く、曹洞宗で開山されましたが、住持していた僧侶の関係から臨済宗・真言宗と変遷し、寛永10年（1633）に尾張（現在の愛知県西部）の観的和尚が再興して、会津若松の恵倫寺の末寺となり、現在に至っています。天明7年（1787）に火災で焼失したため、詳細な記録は残されていません。なお、47年後の天保5年（1834）に本堂が再建されています。そのほかに天保2年（1831）、第12世住職の見道の時には本堂の修理のために杉を植えた、文久2年（1862）、第15世住職の鳳瑞が大般若経600巻を購入して経堂に納めたとの記録が残されています。

本尊は観音像ですが、そのほかに観音寺には地藏菩薩立像が安置されています。この像は木造の一木造で、製作年代は江戸時代前期と考えられます。若松城下などに本拠を置いた仏師の作で、寛永10年に観音寺が再興されたころからあるものと思われます。



今月号では、町内の桜を特集しましたが、ページの関係で載せられなかった桜も……。なので最後に私のおすすめの「安座川沿いの桜」を紹介します。安座川の水が流れる音を聞きながら、春の日差しを浴びている桜を見るのがとても気持ちいいです。（秦）

### 編集後記

今月は、昨年4月中旬に撮影した上野尻発電所付近の桜です。本紙の中で紹介しているもの以外でおすすめの桜スポットがありましたら、ぜひ広報にしあいづまでお寄せください。（8ページに関連記事）

### 今月の表紙